

# 平成30年度廿日市市市民センター職員研修

## 成果につながる講座企画ワークショップ②

# 学習プログラムの評価・改善について

### 【目標】

「成果」を意識した学習プログラムの企画・評価・改善の意義や手法を理解し、実務に活かすことができるようになる。

ぱれっとひろしま

広島県立生涯学習センター

# 本日のメニュー

- **オリエンテーション**
  - ・ **本日の研修内容と目標の確認**
- **【講義】**
  - ・ **学習プログラムの評価について（振り返り）**
- **【講義・演習】**
  - ・ **学習プログラムの改善（リデザイン）について**
- **まとめ，振り返り**

# この研修で大切にしたいこと

- **自分を見つめ直し**，**振り返り**しましょう。
- **相手から聞き出す力**を育て合いましょう。
- **広い視野**と**当事者意識**を持ちましょう。
- 意見や考えの違いを乗り越え，他者と協働しながら，**課題解決**に取り組みましょう。
- **学んだことを仕事に生かす**意識を持って参加しましょう。

# 学習プログラムの 評価について (振り返り)

# 学習プログラムを なぜ評価するのか？



〔学習プログラム〕  
講座，行事等の集合学習の機会におい  
て，住民の学習を支援するための計画

# 学習プログラム開発におけるPDCAサイクル

**PLAN**

学習ニーズの把握や対象の分析  
企画立案

(目的, 目標, 対象, 学習内容・方法, 時期,  
会場, 回数等を定める)

**DO**

実施・運営

(会場・設備・資料等準備, 役割分担確認 等)

**CHECK**

学習プログラムの評価,  
学習成果の評価 等

**ACTION**

学習プログラムの改善, 一般化

# 学習プログラム開発におけるPDCAサイクル

**PLAN**

学習ニーズの把握や対象の分析  
企画立案

(目的, 目標, 対象, 学習内容・方法, 時期,  
会場, 回数等を定める)

**DO**

実施・運営

(会場・設備・資料等準備, 役割分担確認 等)

- 前例踏襲
- マンネリ化
- 停滞 . . .

# 中長期期的な見通しをもった事業

共助の精神でつくる  
防災に強いまちづくり

講習修了者による防災対策のための「ボランティアサークル」を結成しよう。

昨年の参加者が「支援者」として関わる「第2回防災講習会」を開こう。

5年後

3年後

1年後

年間計画

「防災講習会」  
の開催

中期計画

「ボランティアサークル」や市の担当部局と連携・協力し、「災害時対応マニュアル」を作成しよう。



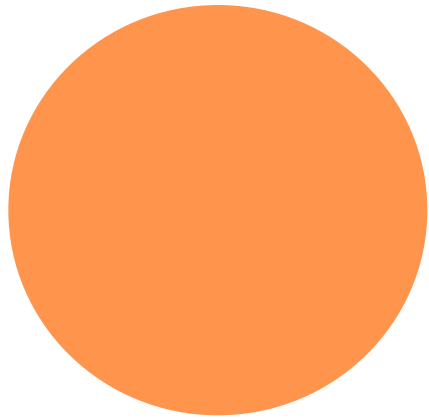
# 学習プログラムを評価する意義

- PDCAサイクルの最終ステップ（**事業の改善・充実**）
- 次年度計画の**説明根拠**となる資料
- **アカウントビリティ**の必要性
- **中長期的**な見通しのなかでの事業運営  
（人材育成，地域づくり等の事業は短期では達成しづらい）

- 学習者自身が，学習の成果をを確認・意識づける  
“振り返り”の教育的な意義

➡ 学習成果の活用・還元

学習成果を「見える化」し、  
「次へつなげる」ための活動



# 何を成果として 評価するのか？



# 主に評価する項目

## ● 学習プログラム自体の評価

- ① 計画した活動の準備，実施順序，活動内容，目標設定等は適切であったか
- ② 活動を実施したことによって起きた結果

## ● 学習者の学習成果の評価

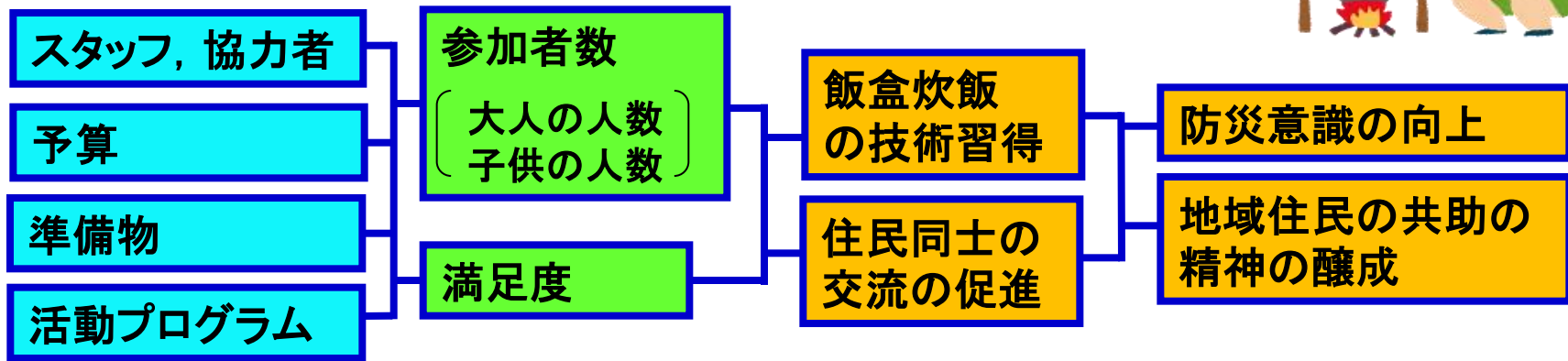
- ③ 学習プログラムの目標はどの程度到達できたか
- ④ プログラム立案者が想定していなかった成果，新たな気づきや展開（波及効果）はないか

# 学習プログラムの評価

# 学習成果の評価

## みんなで学ぶ！防災デイキャンプ

災害等の非常時に備え、地域住民で飯盒炊飯をしよう！



P

① 計画

D

② 実施結果

C

③ 目標の到達度

C

④ 目的の達成に繋がる  
中長期的な見通し  
(波及効果)

アウトプット

アウトカム

# アウトプット

事業の実施によって直接的に生じた結果

参加者・修了者数, 学習者の満足度,  
学習成果物 (人材, 作品・発表資料etc.) など

# アウトカム

事業の実施により発生した成果

(効果, 変化, 影響)

知識・技能の習得, 意識・行動の変化  
アウトプットの成果物の応用・活用 (価値),  
環境の醸成・ネットワーク形成など  
→アウトカムの中には中・長期的な成果

につながるものが多い

# 評価の方法

- ① **振り返りアンケート**
- ② **参加者の実態（具体的に）**
- ③ **感想文**
- ④ **一部の受講者への聞き取り**
- ⑤ **学習活動の観察**
- ⑥ **会場での発言，質問，拍手，挙手などの反応**
- ⑦ **学習成果物（ワークシートや作品）**
- ⑧ **学習活動の記録**

# 実施した結果をつかむ

## 把握すべき実態

- 参加者数
- 参加者の実態をより深く知るデータ  
例) 性差・年齢・居住地域・学習経験など
- 学習成果物  
例) 作品・発表数

注意！ 学習歴や参加動機・きっかけなどは含まない。  
(**学習評価** ≠ **学習ニーズ調査**)

# 学習目標の到達度をはかる

## 把握すべき実態

①知らないことを知ることができたか（知識・理解）

- 例）・理解できたかどうかその場で聞く  
・チェックリストの活用など

②技能，実技を身に付けることができたか（技能・表現力）

- 例）・成果物，発表内容の活用  
・活用の方法や場面を尋ねる

③意識が変わったか（関心・意欲・態度）

- 例）・意見交流や発表の内容を記録  
・アンケートの自由記述の活用

聞きにくいが、  
やっぱり  
③が大事！



# 目的の達成に繋がる中長期的な見通し 波及効果を発見する

## 把握すべき実態

この事業の次の展開を考えるうえで、必要な情報とは？

- 学習目的の達成に繋がるような成果  
例) 人的あるいは情報ネットワークの形成の有無
- 次の事業立案のヒントとなるような情報
- リピーター（継続的な学習参加者）となってもら  
うためのニーズ調査

# 学習プログラムの 改善（リデザイン） について

# 学習プログラム開発のポイント

- ①地域課題に応える「**目的**」「**目標**」になっているか？
- ②学習者を主体にした**具体的でわかりやすい言葉**で目標が示されているか？

「誰が」(学習者)「何について」(学習内容),「どのように」(学習方法)学習するのかを明確に。

- ③**対象者**の範囲や人数が適切に設定されているか？
- ④学習者にとって**魅力的な内容**になっているか？
- ⑤プログラムの**順序やつながり**は適切か？  
各回の学習活動に連続性をもたせ、起承転結を意識する。
- ⑥**過去の学習活動の成果や地域の人材などを活用**する工夫がなされているか？

⑦ 会場や場所，回数や日程，経費や参加費は適切に設定されているか？ あわせて，参加者の準備物，主催者の準備物も明確にしておく。

⑧ プログラム名は，人を惹き付けて，内容が分かるものであるか？ 短い言葉で，どんなことをするのか分かるものにする。

⑨ 目標にあった評価方法が選択されているか？

⑩ 参加者の振り返りを促す工夫がされているか？

参加者自身による学習成果の確認を大切にする。

⑪ ネットワークづくりの視点がプログラムにあるか？

参加者間の相互交流，相互作用を促す工夫をする。

⑫ 学習成果を活用する機会や，次の活動へとつなげる工夫がされているか？

活動の継続と発展，学びが広がる(周囲の人へ，生活の中へ)工夫をする。

# 演習

- 学習プログラムの  
改善（リデザイン）
- 評価指標の作成

**実施結果**

**目標の到達度**

**目的の達成に繋がる中長期的な見通し（波及効果）**

# まとめ・振り返り